

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第12回

---

<タイトル>

「運転免許証の重み」

<本文>

私ごとながら今度の免許更新で初めてゴールド免許がもらえることになった。その内容は皆さんご存知のように5年間無事故・無違反の優良運転者ということである。ちなみに私の性格を知っている周囲の人間は驚いている。物流会社のドライバーほど車は乗らないが数社のクライアント先や現場、そして会社への出勤など、休日はもちろんのこと車に乗っている。

私が驚いたのは5年間という期間の長さである。

3年間ならまだしも、5年間継続するというのは日頃の心がけと注意することだけでは順守できない。もしかすると運の強さもあるかもしれない。

過去にこんなことがあった。ある物流会社の研修会を終わってのことである。懇親会があり、私の同年代の社員さん達と話が盛り上がり、年令を確認し合うために免許証を見せ合った。その時に「青木さんってゴールドじゃないんですか」と言われた。「そうか、仕事柄ゴールドでなければいけない」と痛感した。それから自然に車の運転に気を配るようになった。あれほど抵抗があったシートベルトも今は着用すると反対に安心する。習慣は第二の天性というが真にそうである。

皆さんの会社ではドライバーの免許状態を把握されていますか。以前、ある会社では免許停止中のドライバーを仕事に就かせていたことがあり、後に大問題となり、それからこの会社では定期的に全ドライバーの点数、違反状況を警察に問い合わせるようになった。また別の会社では点数が少なく免許停止間近となったドライバーにはコースを変更させるとか倉庫作業に回るなどという例もある。

ドライバーにとって、免許証はメシの種。それだけに違反や点数などをどうしても隠したいという思いが働くことが多い。運行管理及び配車業務の一環としてこれをしっかり管理しなければならない。もう一度聞きます。皆さんの会社ではドライバーの免許状況を把握されていますか。